

じわり増加!“地方創生型施設”

リゾートや地域の食で実現

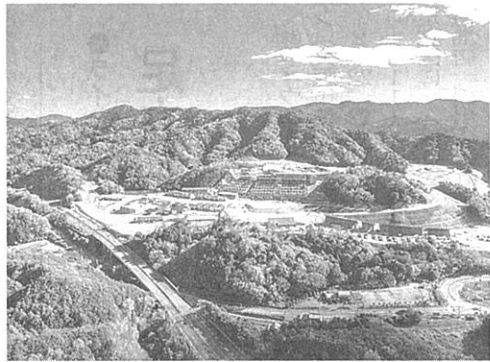
「地方創生型」と呼べる商業施設がじわり増えている。地域の特色を生かした施設づくりが特徴で、食や宿泊機能を導入してリゾート色を打ち出し、交流人口の増加につなげている。類似した施設に「道の駅」があるが、地方創生型施設の特徴は高いデザイン性。価格帯も高めに設定しており、地域の「コミュニティ」の役割を果たしながら、エリアの魅力を発信している。

主な地方創生型商業施設

施設名	所在地	開業	開発・運営企業	概要
VISON	三重県多気町	21年7月	アクアイグニスほか	119万㎡に「サンセバスチャン通り」「HOTE VISON」など様々な施設が集積。ナショナルチェーンゼロで味噌・醤油メーカーなど73店が出店する
(仮称) VISON 静岡	静岡県小山町	26年予定	アクアイグニスほか	VISON 第2弾は足柄SA近くに計画。桑木地区内の25万㎡で整備する
FIELD SUITE SPA HEADQUARTERS	新潟県三条市	22年4月	スノーピーク	キャンプ場を併設する本社敷地に開設した温浴施設を中心とした複合型リゾート。同社が掲げる「衣食住働遊」を体現するライフバリューフィールドプロジェクトの第1弾
Snow Peak LAND STATION HAKUBA	長野県白馬村	20年7月	スノーピーク	スノーピーク店舗、白馬村観光局インフォメーション、ミシュランレストラン、スターバックスが出店した体験型複合施設
Frogs FARM ATMOSPHERE	兵庫県淡路市	19年4月	バルニバービ	淡路島郡家地区のプロジェクト。1軒のレストランから始まり、ホテル、BBQガーデン、回転ずし、バー、ベーカリー店、交流施設などにまで拡大
(仮称) 出雲エリア開発プロジェクト	島根県出雲市	23年4月予定	バルニバービほか	出雲市多伎町にレストラン、宿泊施設を開発・運営。SBIホールディングス、島根銀行らと進める
未定	石川県宝達志水町	24年秋予定	バルニバービ	海岸沿いの千里浜なぎさドライブウェイに、カフェ&レストランを24年秋に開店する。第2期計画では宿泊施設を開業する予定

(商業施設新聞調べ)

淡路島北西部は一躍人気に



VISONの全景。広大な敷地に多彩な施設が点在する

景・食・泊・デザインなど打ち出す。EC市場の隆盛で変容した消費行動や、新型コロナウイルスで地方に意識が向く中、体験型商業施設に注目が集まっている。その体験とは、その場所で見られる自然の風光明媚な景色や、地域の食材を使った食を核に据え、さらにゆったり過ごしてもらったために温浴施設や宿泊施設でリゾート感を出すとといったものだ。また、高いデザイン性により施設の魅力を高めていることも共通点だ。地域創生型施設の中でも

注目を集めているものはいくつかある。その一つとして(株)アクアイグニスなど4社で構成するヴィソン多気(株)は、「VISON」を2021年7月に開業した。119万㎡の広大な敷地、高低差を活かした大胆なグランドデザインが圧巻だ。この中に「マルシェ ヴィソン」「和ヴィソン」「農園」「サンセバスチャン通り」「HOTEL VISON」などの施設が点在し、73店が出店した。伊勢神宮に近いことから、地域需要や観光需要を見込み、様々な食を集めた。ナショナルチェーンゼロを目指して味噌・醤油・酢・出汁メーカーの店舗を導入し、酒蔵も設けている。第2弾として、静岡県駿東郡小山町の東名高速足柄SA周辺の桑木地区内25万㎡に計画しており、26年の開業を目指す。また、アクアイグニスはVISONの成果を活かし、22年4月20日、「アクアイグニス仙台」を開業した。温浴施設、ベーカリー、スイーツ、イタリアン、和食、カフェなどで構成し、関西でも淡路島にPark PFIを活用した新施設を今夏に開業する予定。

キャンプ用品などを展開する(株)スノーピークは、同社が掲げる「衣食住働遊」を体現するライフバリューフィールドプロジェクトの第1弾として、温浴施設を中心とした複合型リゾート「FIELD SUITE SPA HEADQUARTERS」を22年4月15日に開業した。キャンプ場を併設する本社敷地を3倍の約15万坪に拡張。隈研吾氏が設計を手がけ、ウイラ棟と簡易型の宿泊施設や、温浴施設として日本三百名山の一つ、粟ヶ岳の眺望を楽しめる露天風呂を設けた。レストランは地元生産者とながり、食を通じて地域の魅力を発信する。今後同地で第2、第3弾を計画する。

スノーピークは先立って20年4月、長野県白馬村に「Snow Peak LAND STATION HAKUBA」を開業している。スノーピークの店舗、白馬村観光局インフォメーション、ミシュランレストラン、スターバックスが出店した体験型複合施設だ。このほか、釣り用品の製造・販売の(株)ティムコ3社と、札幌市郊外にアウトドア用品店、フィッシング場やキャンプ場を併設した体験型複合施設を23年冬から24年春に開業する予定だ。中期的に道内に3〜5施設、将来的には全国展開も視野に入れる。

「パーク」を活用した新施設を今夏に開業する予定。多彩な飲食店を展開する(株)バルニバービは、「Frogs FARM ATMOSPHERE」と称して、兵庫県淡路島の北西部の郡家地区で、レストランやホテルなどを整備した。これにより以前は人が訪れなかった場所が、一躍人気スポットとなった。

口火を切ったのは、19年4月に開業した淡路島と瀬戸内海の食材を使ったメニューを提供するカフェ&レストラン。この店をきっかけに、きれいな海に沈む夕日が人気となり、「泊まって沈む夕陽を見ながらゆっくり楽しみたい」という需要が生まれ、20年7月にはレストランの近くに宿泊施設「カモメ スロー ホテル」を開設した。21年4月には「ピクニックガーデン」を開業し、以降、周辺では回転ずしやスナックなど様々な飲食店が開店した。22年3月には廃校となった小学校校舎跡を改装し10施設目を開業したほか、同年4月にアイスクリーム店とベーカリー店をオープンした。このほかバルニバービは淡路島東部の洲本市や、島南部でも開発を進める。開発面積はレストラン1店から、今や2万5000㎡に広がり、所有する土地を有効活用して欲しいと名乗り出る地権者も少なくない。将来的には開発面積は10万㎡を超えるもようであり、街づくり的な広がりを見せる。今後は島根県出雲市でもSBIホールディングスらと事業を進めるほか、石川県の千里浜なぎさドライブウェイにカフェ&レストラン、宿泊施設を開業する

地方創生がキーワードになっていることを、本紙で「商いの新しいものさし」を連載中の(株)商い創造研究所の松本大地氏はこう指摘する。「先端の地方創生型商業施設に共通するのは、トキとコトの体験が抜き出ていることだ。新しい感性で地域リソースを見つめ直し、食、モノ、宿泊、温浴、運営などを言語変換して特別な価値に業態変換する技を發揮する。それこそ過去の地方創生手法との大きな違いである」。

地方を中心とした人口減少、大都市一極集中といった課題もある一方で、コロナ禍により、人々が地方の魅力に気が始めた。まだまだ眠っている地方の魅力をいかに発信していくか、各社の取り組みに注目だ。